

香大発、地域ぐるみ女性研究者支援の高波を

(実施期間：平成 22～24 年度)

実施機関：香川大学（総括責任者：長尾 省吾）

プロジェクトの概要

女性研究者の地域ぐるみの支援を目指して、学内外の資源を総合的に活用することにより下記の取組を進めていく。

- ①男女共同参画推進室設置、コーディネーター配置、相談体制整備、部局での女性研究者支援の明確化、地域の行政、NPO 法人、団体等とのネットワークづくり等により、本学のみならず地域ぐるみの女性研究者支援体制を確立する。
- ②相談、保育・託児の場の確保等で、学内外の資源を総合的に網羅、活用し、県外出身者が多数の女性研究者が育児等で孤立しないよう組織的に支援する。
- ③役員との意見交換、女性研究者同士のネットワーク化、女子学生への相談体制整備等により学内縦横での女性研究者支援・育成拡大の意識醸成、ニーズ把握等を図る。
- ④シンポジウム等により、地域、四国の大学、研究機関、企業、団体等との情報交換、連携を図り、女性研究者支援の「波」を高め、広げる。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	システム改革	実施体制	実施期間終了後における取組の継続性・発展性
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

学長のリーダーシップの下、全学的な実施体制を確立し、アンケート調査等により女性研究者のニーズと満足度を確認しつつきめ細やかな支援を行うとともに、女性研究者の採用促進に積極的に取り組んだことが評価できる。今後は、さらなる取組により、工学・農学系の女性教員、また、上位職階の女性教員の増加を図ることを期待する。

- ・**目標達成度**：女性研究者比率、自然科学系大学院女子学生比率、科研費採択率等、所期の目標は達成していることが評価できる。今後は、より高い水準での目標設定とその実現に向けた具体的な取組を期待する。
- ・**取組**：女性研究者に対するアンケート調査、支援員・育成員へのヒアリング、女性研究者と大学幹部との懇談会の実施により女性研究者のニーズを的確に把握し、病児保育施設整備、病児

移送サービス、学童保育、託児サポーター養成など特色ある取組を行い、きめ細やかな支援を行ったことが評価できる。

- **システム改革**：学長主導で実施した女性研究者の採用、活躍促進に向けてのポジティブ・アクションが有効に機能し、システム改革の成果を上げており評価できる。
- **実施体制**：学長及び各部局長が参画する男女共同参画推進委員会を組織し、その方針に基づき、各部局から推薦された代表を室員とする男女共同参画推進室が具体的な取組を実現する全学的な実施体制となっており評価できる。また、地域の学外組織との事業連携を進める実施体制も確立された。
- **実施期間終了後における取組の継続性・発展性**：事業実施期間終了後も全学的な支援体制を継続し、取組を継続するための予算も十分確保しており評価できる。さらに、中国・四国地区男女共同参画推進連携会議を立ち上げ、他機関とのさらなる連携も進めている。